



伊予の日常 『オーバールールと丸眼鏡を纏って…』

伊予市地域おこし協力隊 隠岐 一徳



はじまり

景観と町並みのひとめぼれから即行動し、昨年3月1日から丸一ヶ月愛媛県を旅しました。多くの人との出会いから直感で伊予市を移住地に決め、地域おこし協力隊として採用されました。4月前半には住まいを決め、荷造りして5月には引っ越しを終え、6月から新生活をスタートしました。伊予市の人々に感謝し、自分を覚えてもらうためにユニフォームを着用し、多数のイベントや飲み会に参加しました。元は帽子を被らず、髪は長く、髭もなく、眼鏡もかけていなかったことを考えると、現在の自分は全く別人のように感じます。

前職と移住を考えるきっかけ

今年で41歳を迎える私は13年間フアツシヨン業界で働いていました。商品企画

や管理、バイヤー、接客、店づくり、人材育成、撮影、販促物、SNS運用などを経験し、成功と失敗を通じて会社の成長を見守る貴重な時間を過ごしました。しかし、足を壊し手術を受け、3年間のリハビリを経て歩けるようになったことが移住を考えるきっかけとなりました。足の痛みで人生に絶望しそうな時期を経て、たまたま目にした『移住』というニュースに心を動かされました。動けなかった3年があったからこそ、新たな挑戦に対するワクワク感が生まれました。

ミッション

移住3か月前、前職の経験を買われて建築会社の社長から古民家再生事業の店内装ディスプレイを依頼され、店づくりのディレクション業を行いました。ヴィンテージやアンティークに興味があり、特に1940〜1950年代のものを収集・修理していたため、日本の古き良きものを再生・循環する仕事は非常に魅力的でした。空き家や利活用に興味を持つきっかけとなり、活動ミッションにもな

りました。

この期間、人間関係の構築の難しさを感じました。どんなことも一人ではできず、誰かと協力することが重要です。人との信頼関係を築くことには時間がかかります。回りが、これが重要だと感じていまず。回り道と考えることも今の自分に必要なことだったりします。伊予市移住が決まった日から、人を知ること全力を注いでいます。初対面の人とでも飽きずに会話できるのは、前職で毎日何時間も接客していた経験から、人が好きだからでしょう。



講師のミニ写真のミーティングファン

地域を知る活動として多数の呑みコミュニケーションに参加

最初の半年ぐらいは人脈拡大と交流を兼ねて様々な場に赴き、呑んで食べて談



笑して過ごしました。こういった集まりは、時代とともに年齢や育った環境、考え方の違いから時間の楽しみ方が多様化し、コロナの影響もありデジタル化が加速して生活スタイルが大きく変化したことで、失われつつあるものです。直接顔を見て会話をすることが、人を知る、人に伝えるには何より早く大事です。これは地域の魅力の一つであり、時代が変化しても引き継ぐべき文化です。

トータルファッションタニオカさんの店舗内装プチリニューアル

トータルファッションタニオカさんは、灘町商店街で創業87年になる老舗。婦人服&制服店です。三代目オーナーの樋口さんはアート活動もしており、店舗内装のプチリニューアルを協力隊3人で行いました。

チームは『ナチュラル』で、白やオフホワイトを基調とし、マリン要素を少し加えた内装にしま



作業風景

した。事業者さんと一緒に作り上げることで、充実感と素敵なものになることを実感しました。

今年6月には、新たにマルセロベーカーさんが加わり、更に楽しみな場所となりました。

た。

NPO法人空き家サポート伊予との情報共有と現地視察同行

伊予市の空き家対策が本格的に動き出し、NPO法人空き家サポート伊予が立ち上がって2年目ということもあり、まずは空き家の現状把握と情報収集を行いました。

多くの場合、空き家は所有者が相続で受け継いだもので、手離すことを躊躇する理由は家に対する思い入れが強いためです。老朽化は住まなくなった時点で急速に進むため、活用が早ければ早いほど小規模の対応ですみます。解体補助の申請が通らなかつた方や周辺住民からの苦情がある空き家に対して空き家バンク登録案内を行い、今後も一人一人に寄り添って提案していくよう努めています。



役所にミシンを持ち込み、店内5m間仕切りカーテン製作

香川県東かがわ市にて協力隊の所有した空き家で囲炉裏づくり体験

自然の材料を使った囲炉裏作りの体験は、ワクワクする時間となりました。

講師の方から多くを学び、伊予市の人々にも体験してほしい内容でしたので、今後の活動で空き家ワークショップを開こうと思っています。

これから

6月で移住して1年がたちました。伊予市のあたたかい人々との出会いに感謝し、『やっぱり、伊予市良いなあ』という思いは変わりません。協力隊の任期は3年で、任期後は定住し起業、定住し企業に勤める、地元に戻るの3つの道があります。私は起業を考えていましたが、生計を立てる重圧を感じています。デザインや製作をビジネスにしていなかったため、今の精神状態になっていることに気づき、小さなビジネスの経験を積み上げていくことにしました。これからは幾度なく壁にぶち当たるとはありますが、今までの活動を継続しつつ、新たな挑戦をしていく1年にしたいと思います。



囲炉裏づくり講義&体験、自然の材料で道具を作る焚き火体験